3　指導計画

学期	学習活動内容
1学期	・表情カードからぴったり合う気持ちを選んで教師に伝える。(資料3) ・考えたことを簡単な言葉で付箋に書いてまとめ、発表する。(ロイロノート)
2学期 (本時)	・教師と一緒にロイロシートで共同編集し考えをまとめる。(ロイロノート) ・ロイロシートに本時の気付きを声で吹き込み録音する。(ロイロノート)
3学期	・共同編集しながら自分の考えや違う考えに気付き、深める。(ロイロノート) ・付箋、録音、ノートへの記述などを習慣化し、考えたことを自由に表現する。

4　授業の展開

授業の展開		指導上の留意点
導入	①自分の経験を思い起こす。	・涙が出るときってどんなときでしょう。
展開	②教材「くりのみ」を読んで話し合う。 ③きつねの気持ちをロイロシートに記入する。 きつねは、どんな気持ちで涙を流したのでしょう。	・自分のことを考えていたきつねと相手のことを考えていたうさぎに分けて整理する。
まとめ	④まとめる。・道徳ノートへ記入する。 ・ロイロシートに録音する。	・新しく気付いたこと、これから大切にしたいことを自分の言葉でまとめられるようにする

5　実践を振り返って

(1) なにができるようになったのか

・シンキングツールを使うことで「考えを深める」ということが視覚的にイメージでき、前向きに思考し、考えた理由を詳しく話せるようになってきた。見えない気持ちを掘り下げる経験を国語の学習にも生かしてきたことで、考えを問う場面でも発言が活発になってきた。ねらいを焦点化して思考できるようになり、発言の深まりを見取ることができた（資料4）。

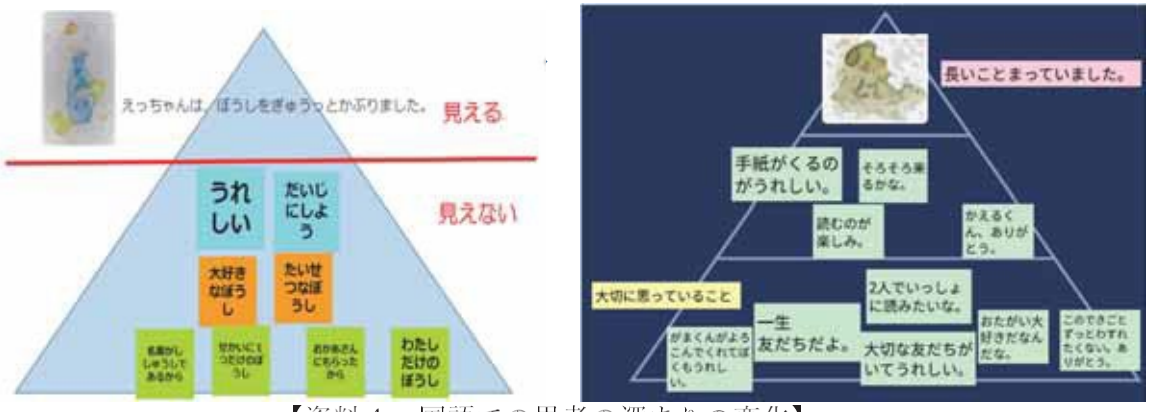
・付箋の言葉を使い自分の言葉でまとめ、録音をして聞き返す活動は、自分の話し方を聞くという点で自立活動にもつながった。以前の学習を思い出すときは、画像と一緒に自分の音声を聞くことで、より鮮明に内容を思い出すことができた。記録に残せるので、振り返ったときに児童が自分の成長を実感でき、教師も児童の学びの深まりを評価できた（資料4）。

(2) 発展・応用に向けて

・いろいろな場面で各種シンキングツールを活用することで、思考、推論の力を伸ばす。

・Chromebook を使い慣れさせ、操作で思考を途切れさせず、考えを深める時間を確保する。

1学期
「名前を見て
ちょうだい」



【資料4　国語での思考の深まりの変化】

事例５ 英語	主体的に学習するための ICT 機器の活用
【分類】Ｃ１	聴覚障害　中学部

キーワード	①主体的な活動　②イメージ　③まとまりのある文章
使用ツール	Chromebook、Google Classroom、Google フォーム、Google スライド 電子情報ボード（大型提示装置）

1　どんな力をつけさせたいのか

（１）生徒の実態

・中学部３年　２名(生徒 A、生徒 B)

生徒Ａ　・基礎的な文法事項の習得は学年相応には至らないが、英語学習には積極的である。
・発言がユニークである。
・ICT 機器や資料を用いての情報収集が得意である。

生徒Ｂ　・少しずつではあるが学習の成果が見え始めている。
・英作文を作る際に自分でイメージを膨らませて考えることが難しいため、いくつかの例を提示することで考えることができる。

（２）つけたい力

・自分が経験したことのある活動について簡単な語句や文を用いて話すことができる。【知】
・部活動や委員会などの活動について伝え合うことができる。【技】
・部活動や委員会などの活動についてまとまりのある内容で発表することができる。【思・判・表】
・部活動や委員会などの活動についてまとまりのある内容で発表しようとする。【学・人】

2　使用ツールを生徒が活用するための支援のポイント

生徒自身が自分で振り返りができるように以下のものを使用した。

・Google Classroom のストリーム機能の活用…提出した課題を生徒同士が見ることで自分自身の解答が正しかったのか、相手の答えがどんなものであったかを確認できる。また、字幕付きの英語動画を貼り付けることで文字と発音を繰り返し学習することができる。(資料１)

・Google フォームによる Words Quiz…単元ゴールのために必要な単語をラジオボタンを使って単語テストを行うもの。4 択にすることで綴りに自信がない生徒にとってのヒントになることとクイズの結果がデータとして蓄積されるため、どれだけ点数が取れていたのか目で見てすぐに分かるようになっている。(資料２)

・Google スライド…学習した内容を個人で確認できることと教師のモデル文を個々で参照できること。教師は生徒の進捗状況をその場で確認することができる。(資料３)

③ 指導計画

次・時数	学習活動内容
第１次 （本時１/4）	教師による Google スライドを使った活動報告を聞き、単元のゴールをイメージする。生徒が報告したい活動を選び、内容をストリームに提出する。
第２次 （2/4）	現在完了（経験・継続）の文法事項を確認し、現在完了形を使っての活動報告を英作する。できた原稿を Classroom のストリームで提出する。
第３次 （3～４/4）	Word Quiz を活用し、単語の小テストを行う。生徒同士が作った活動報告の原稿を読んで、質問やアドバイスがあれば友だちに伝える。 訂正した原稿を電子情報ボードを使い、発表する。

④ 授業の展開

授業の展開		指導上の留意点
導入	①この単元でどんな力がつくのか説明を聞く。	・単元終了後にどんな力がつくのかを説明し、見通しをもてるようにする。
	現在完了を１文以上入れて、６文以上の活動報告しよう！	
展開	②教師の学生時代の部活報告を Google スライドで見る。 ③報告したい活動を選び、内容をストリームに提出する。	・教師がモデルとなってどのような活動報告をするのかイメージをもてるようにする。 ・報告したい活動がなかなか決まらない場合はいくつか例をあげて考えられるようにする。
まとめ	④本時の振り返り	・本時の目標についての振り返りを行う。

⑤ 実践を振り返って

（1）なにができるようになったのか

・生徒がスライドを作成する際に行き詰ったときは、Google スライドの教師が作ったモデル文を参考に個々で修正を行うなど自主的な学習活動ができている。
・ストリームや Words Quiz を活用することで発音練習ができ、自信をもって発表することができている。（資料４）

（2）発展・応用に向けて

・ディベートなどで自分の考えなどを簡単な文を使って即興で考え、まとまりのある内容で発表できるようにする。
・英単語テストの回答方法を選択肢ではなく、記述式（タイピング入力）にして、今以上に綴りに注目できるようにする。

【資料１　ストリーム】

【資料２　Words Quiz】

【資料３　Google スライド】

【資料４　発表の様子】

事例６ 算数	点数表を使ってみんなでボウリングをしよう
【分類】C１	知的障害　小学部

キーワード	①ボウリング　②役割　③成績表
使用ツール	Chromebook、Google スプレッドシート、大型提示装置

１　どんな力をつけさせたいのか

（１）児童の実態

・本学級の児童は、小学部１年２名、２年１名、３年１名の４名で構成されている。知的障害の他に自閉症、肢体不自由等を併せもつ児童もいる。

・算数科の目標は、小学部１段階の児童が２名、ものの集まりや数詞と数字の対応、個数を正しく数えること、二つの数を一つの数にまとめる合成等を行っている小学部２段階の児童が２名である。

・ボウリング学習の経験があり、ボールを転がし、ピンを倒すというゲームのルールや成績係、ピン係などそれぞれの役割を理解して楽しむことができる。

・タブレットは使っているが、Chromebook を使った学習は初めて経験する。

（２）つけたい力

・ピンを数えたり数字で表したり二つの数を一つの数にまとめたりする。【知・技】

・ピンを数えたり数字を合わせたりして成績表に数字を入力する。【思・判・表】

・意欲的に数えたり数字を合わせたり数字を入力したりしようとする。【学・人】

２　使用ツールを児童が活用するための支援のポイント

大型提示装置と Chromebook を使用してボウリングの成績表を表示することにした（資料１）。複数の Chromebook を使用することで、それぞれの児童が入力したことがすぐに大型提示装置に反映され、全体で共有することができる。成績表はスプレッドシートで作成した。児童の顔写真と回数、得点のみのシンプルなものにすると共に、タブ等余計なものが表示されないように設定した。また、得点を入力する枠は算数の合成の枠と同じようにした。更に Chromebook の操作手順カード（資料２）を用意し、児童が確認できるようにした。

【資料１　大型提示装置に映された成績表】

【資料２　Chromebook の操作手順カード】

３　指導計画（全４時間）

次・時数	学習活動内容
第１次 （３／４時間・本時）	みんなでボウリングをしよう

4 授業の展開

	授業の展開	指導上の留意点
導入	① はじめのあいさつをする。 ② 本時の流れを知る。 ③ 準備をする。 ④ 約束や役割を知る。 （約束）①せんからでない②ころがす。	○ひらがなとイラストで本時の流れを示す。 ○準備するものの写真や動画で確認する。 ○約束をクイズ形式で確認する。 ○児童の役割を動画で示す。
展開	⑤ ボウリングをする。 くじで順番を決める。 （役割） 児童Ａ：倒れたピンをかごに入れる。 ピンを並べる。 児童Ｂ：ボールをかごに戻す。 成績表の１投目と２投目の数字を合成して、成績表に数字を入力する。 児童Ｃ：ピンを数え成績表に数字を入力する。 児童Ｄ：数え終わったピンを片付ける。	○成績表を大型提示装置、児童Ｂ、児童Ｃの Chromebook で共有できるようにする。 ○倒れたピンが分かるように、倒れていないピンと比較した写真カードを用意する。 ○ピンを並べるところに印を付ける。 ○数え合成できるようにおはじきを用意する。 ○Chromebook の操作手順をカードで示す。 ○ピンを数えやすいように、数字が書かれている 10 で仕切られた箱を用意する。
まとめ	⑥ 結果を知り、メダルをもらう。 ⑦ 片付けをする。 ⑧ 感想を発表する。 ⑨ おわりのあいさつをする。	○全員にメダルを準備し、良かったところやがんばったところを称賛する。 ○児童が片付けるものを写真で示す。 ○「準備片付けカード」「ボウリングカード」「役割カード」を用意し、選択できるようにする。

5 実践を振り返って

（1）なにができるようになったのか

・自分が数えたピンの本数を Chromebook の成績表に正確に入力することや、友達が入力した１投目と２投目の数字を見て、磁石を使って合成し、合成した数を Chromebook の成績表に入力することができるようになった。

・Chromebook の操作手順カードを確認することで、ENTER キーを押し忘れることが少なくなった。また、大型提示装置に共有されることを確認しながら、ENTER キーを押す様子が見られた。

（2）発展・応用に向けて

・ボウリングだけでなく、他のゲームにおいても成績表を共有して応用することができる。

・今回はそれぞれの役割を果たすことに重点をおいて取り組んだ。今後は Chromebook を使い、児童の答えを共有して、大型提示装置に映し出せることを活用し、児童の実態によっては、文章をつなげたり、それぞれの実験結果を比較したりするなど各教科の対話的な学びにも発展させたい。

事例７ 数学	データを集計して表やグラフを使いこなそう！
【分類】C1	知的障害　中学部

キーワード	①集団での取組　②データの整理　③作業の効率化
使用ツール	Chromebook、Google Classroom、Google Jamboard、Google スプレッドシート

1　どんな力をつけさせたいのか

（1）生徒の実態

・中学部２年の生徒４名である。Jamboard の使い方は２学期初旬に学んでいる。

・ICT を活用することは好きで、意欲的に取り組むことができる。書くことに時間がかかり、思考する時間を十分に確保できない生徒もおり、付箋機能で文字をコピーできる Jamboard を活用することが有効であると考えた。

・前時までにワークシートを使って表の作成について学習している。

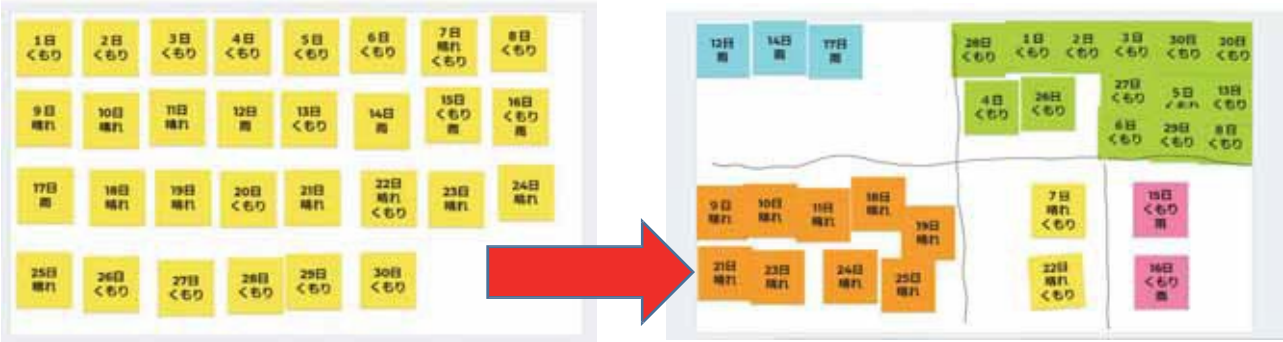
（2）つけたい力

・１ヶ月の天気についてデータを分類、整理し、グラフに表す方法を知る。【知・技】

・データを見やすく整理する方法を考えることができる。【思・判・表】

2　使用ツールを生徒が活用するための支援のポイント

本単元では Jamboard の付箋機能を主に活用していく。Jamboard では付箋の色を変えたり、付箋を動かしたりすることが容易に行うことができる。これにより、付箋に書き直す時間を省くことができ、生徒がデータを整理することに十分に時間をとることができる。またページの複製も容易にでき、個別でデータの整理に取り組んだ内容を最後に全体で共有しやすい。



3　指導計画

次・時数	学習活動内容
第１次 （11 時間）	表やグラフの作成、読み取り

第２次 （５時間）	データの収集、集計、考察

4 授業の展開

授業の展開		指導上の留意点
導入	① 挨拶をする ② 本時の流れを確認する。 ③ 前時の振り返りを行う。 ④ 本時の目標を確認する。	
展開	⑤ データの整理の仕方について全体で考え、整理を行う。 ・データの整理の仕方を考える。 ・４人で話し合い、本時のデータの整理の仕方を決定し、Chromebook を操作して共同編集機能を使い合同でデータの整理に取り組む。 ・整理したデータについて、生徒と教師で確認を行い、表にする。 ⑥ 整理したデータをグラフにする方法の説明を聞き、自分でグラフに表す。	○Chromebook を生徒一人一人に準備する。(事前に画面を共有し、生徒が編集可能にしておく。) ○Jamboard 上に９月の天気をカレンダー形式にして提示を行う。(１日につき付箋１枚) ○うまくいかない場合は教師が説明を行う。(Jamboard を四分割し、同じ天気ごとに整理する。天気を記号に置き換えて見やすくする、付箋を天気ごとに色分けする等)
まとめ	⑦ まとめをする。 ⑧ 挨拶をする。	

5 実践を振り返って

（１）なにができるようになったのか

・データの内容や種類によっては色分けや並び替えをすることで見やすくなることに気付くことができた。

・整理したデータを表や簡単なグラフまたは棒グラフに表す方法を知ることができた。

（２）発展・応用に向けて

・生徒一人一人思考のスピードが違うので、Jamboard のページの複製を行い、一人一人の実態に合ったデータの整理が出来るような工夫を行う。また発表する機会を設定し、どのようにデータ整理を工夫したのか共有する。

・学校生活や日常生活の中にあるデータを収集し、整理した内容についてスプレッドシートを活用して表やグラフにする学習が可能であると考える。Jamboard、スプレッドシートの２つを活用して学習を進めていくことが可能である。

事例８ 理科	「かんさつ日記」作成から発表まで
【分類】A1・B2	知的障害　中学部

キーワード　①　観察　②　記録　③　発表

使用ツール　Chromebook、Google スライド、Google ドライブ、CoeFont※６、大型提示装置

１　どんな力をつけさせたいのか

（１）生徒の実態

・生徒Ａ　自然に触れたり、慣れ親しんだりはでき、作物の成長に気づくことができるが、比較したり、関係付けたりして、見たり考えたりする観察や記録をとることは難しい。

・生徒Ｂ　自然に触れたり、慣れ親しんだりはでき、作物が大きくなると変化に気づくことができるが、意図的に生長段階を観察したり記録したりすることは難しい。

・生徒Ｃ　自然に触れたり、親しんだりは積極的にできるが、観察したり、変化に気づいたりすることは難しい。

・生徒Ｄ　自然に触れたり、親しんだりはでき、意欲的に活動に参加できるが、観察したり記録をとったりすることは難しい。

・生徒Ｅ　風やゴムの力の動き等の本生徒の興味関心がもてる内容では物の動く様子に着目して、風の力で動いたことに気づけていたが、作物の成長を観察記録することは難しい。

・生徒Ｆ　教師と一緒に自然に触れたり親しんだりすることはできるが、作物を自ら見たり観察したりすることは難しい。

（２）つけたい力

・Google スライドを使用して作物の成長を観察し記録して、観察日記を作成することができる。【知・技】

・観察による成長の過程を撮影したり感想を入力して記録をとったりして、比較したり、変化に気づいたりできる。【思・判・表】

・観察日記として記録したものをプレゼンテーションにして、気づいたことや分かったことを発表しようとしている。【学・人】

２　使用ツールを生徒が活用するための支援のポイント

Google スライドを使用して観察記録を入力するためのテンプレートを作成し、生徒が写真や文章を入力して時系列で作成できるようにした（資料１）。観察した内容を文字入力だけでなく音声入力も使用し、Chromebook やデジタルカメラで撮った映像はそれぞれが共有して使用し、簡単に挿入できるようにして、時系列に並べて見て変化に気づけるようにした。観察記録を一枚のスライドに記録して蓄積し、最終的にプレゼンテーションのツールとして使用し、生徒自身が活動を振り返りながら気づいたことを発表できるようにした。

【資料１　観察日記】

3 指導計画

次・時数	学習活動内容
第１次 （４時間）	学級農園で栽培しているジャガイモの様子を観察し、写真を撮って気が付いたことや感想を文字入力や音声入力を使ってスライドに入力し、観察記録を作る。
第２次 （１時間・本時）	自分が作ったスライドを使った「かんさつ日記」をクラスのみんなにプレゼンテーションし、気付いたことや分かったことを発表する。

4 授業の展開

	授業の展開	指導上の留意点
導入	① 号令・挨拶 本時の流れと Google スライドを使った「かんさつ日記」の発表方法を聞く。	○これまで、記録してきた「かんさつ日記」を使って発表することを伝え、発表の仕方と聞き方を伝える。
展開	② 各自、パソコンを立ち上げて、かんさつ日記のファイルを開き、発表の準備をする。 ③ 自分のスライドを操作してプレゼンテーションを行い、観察して気付いたことや分かったことを発表する。	○発表前に各自のパソコンをモニターに接続する。 ○各自の名前のファイルを開き、スライドを使って、観察記録した内容を伝えるように支援する。 ○文字入力したものを音声出力アプリを使って発表できるようにする。(生徒 D・F) ○モニターに注目し、変化や分かったことに注目して聞くように声掛けする。
まとめ	④ 振り返り 「かんさつ日記」の発表を聞いて良かったところや面白かったところを発表し合う。 ⑤ 号令・挨拶	○観察や記録の発表内容から感想を伝えるように支援する。

5 実践を振り返って

（１）なにができるようになったのか

・ひらがなの文字入力や画像挿入により、観察や記録を Chromebook を使用して作成できたことで、生徒が成長の過程を見て比較したり、変化に気付いたりしやすくなった。

・かんさつ日記に使用する写真や、成長の記録として残すための被写体を意識した写真を、デジタルカメラやタブレットを使い撮ることで、観察の記録として分かりやすいものが作成できた。

（２）発展・応用に向けて

・生徒が観察や記録を分かりやすく自分で作成できることで興味関心をもって見たり考えたりすることにつながっていくのではないかと考えられ、自ら興味関心をもったものを観察し記録した結果についても見たり考えたりできるようになるのではないかと考える。

・Google スライドは共同作業ができることから、クラスや班活動等で生徒同士、または生徒と教師が協力して一つの課題に取り組む授業づくりが考えられる。

事例９ 総合的な 学習の時間	地震について事前に備えよう～備えあれば憂いなし～
【分類】C２	知的障害　中学部

キーワード	①興味・関心　②自己選択　③防災学習
使用ツール	Chromebook、Google ドキュメント

１　どんな力をつけさせたいのか

（１）生徒の実態

・理解力による差が大きいため、それぞれの実態に応じた指導や支援が必要である。
・５月に一人一台端末が支給されてからは授業で積極的に活用していて、パスワードを見て入力することができる生徒が数名いる。
・学校内で避難訓練を行っているが、自宅で被災した場合の危険に対する理解や適切な避難行動は、被災した経験がないため想定して行動することは難しいと思われる。
・非常用持ち出し袋について中身の重要さや使用法などの知識は浅いと思われる。

（２）つけたい力

・非常用持ち出し袋の大切さについて気付くことができる。【知・技】
・非常用持ち出し袋の中身に必要なものを考えて選択することができる。【思・判・表】
・非常用持ち出し袋について興味・関心をもつことができる。【学・人】

２　使用ツールを生徒が活用するための支援のポイント

・生徒はスマートフォンやタブレット等の操作に慣れていて、プリント学習だけでなく、ICT 機器を活用することで意欲的に学習に参加できる。
・防災学習を始めた頃はスライドを見せてもあまり興味・関心を示さなかったので、生徒自身が Chromebook を操作しながら学ぶ形にすることで意欲を引き出したい。
・生徒が Chromebook を操作しながら「最低限必要な防災グッズ」、「できれば持っていきたい防災グッズ」、「これがあれば落ち着くもの」を自ら色分けして選択できるようにすること（資料１）で主体性を引き出したい。

【資料１　Chromebook でカテゴリー別に分類したワークシートと色別に分けた防災グッズ】

３　指導計画

次・時数	学習活動内容
第１次（２時間）	地震が起きてしまったらどうなるの？？その時どうすればいいの？？

第２次（２時間）	もしも家で地震が起きてしまったらどうすればいいのか？？ もしも外出時地震が起きてしまったときにはどうすればいいのか？？
第３次（１時間・本時）	非常用持ち出し袋について考えてみよう！！
第４次（１時間）	避難所ってどんなところ？？どうやって過ごすの？？
第５次（１時間）	まとめ～今までの授業をクイズ形式で振り返ってみよう～

4 授業の展開

	授業の展開	指導上の留意点
導入	1　挨拶をする。 2　今日の学習活動の説明を聞く。 3　前時の復習をする。 4　本時の目標を確認する。 ・非常用持ち出し袋の大切さに気付く。 ・必ず持っていくと良い防災グッズを知る。	・日直が号令を掛ける。 ・前時にどのような学習を行ったのか質問する。出てこない場合はイラストなどを活用し、質問を引き出すようにしていく。
展開	5　非常用持ち出し袋について学習する。 6　Chromebook を使って自分の非常用持ち出し袋に入れる物を考え、リストを作ってみる。 7　自分の非常用持ち出し袋を発表する。	・防災グッズの使い方などを質問して興味、関心が持てるようにする。 ☆補助の教師が Chromebook 操作等の補助をする。 ・発表の手順に沿って話すことをあらかじめ確認する。
まとめ	8　本時の学習で非常用持ち出し袋の必要性を認識し、家庭での準備と活用の仕方について理解する。 9　挨拶をする。	・家庭での非常用持ち出し袋の準備や保管場所についての必要性を認識できるよう具体物を提示しながら話す。 ・日直が号令を掛ける。

（☆生徒の ICT 活用の留意点）

5 実践を振り返って

（１）なにができるようになったのか

・Chromebook の使い方（指での操作や折りたたんでも使用できる）の理解がすすんだ。
・今回 Chromebook を使ったことによって防災グッズについての興味・関心がもてた。
・学習後、身の回りにあるものを見て、「防災グッズに使える」など気付く生徒もいた。

（２）発展・応用に向けて

・今回 Chromebook を使って、防災グッズを選択することや、非常持ち出し袋を自分で作っていくことの楽しさを感じられたのではないかと思う。
・個人で使用することに偏ってしまうのではなく、Google Meet など全体で参加し活用できるツールを使用することでより良い授業ができるのではないかと思う。
・生徒が自分の端末を扱うことに夢中になって、集中が続かなくならないように、一定のルールを理解して学習に臨めるように工夫したい。

事例 10 生活単元 学 習	写真で振り返ろう
【分類】C3	知的障害　中学部

キーワード	① 振り返り　② 発表　③ 自己選択
使用ツール	Chromebook、Google ドライブ、Google スプレッドシート、大型提示装置

1 どんな力をつけさせたいのか

（1）生徒の実態

・中学部 3 年の男子 5 名、女子 1 名の計 6 名で構成されており、小学部 1 段階から中学部 1 段階と生徒の実態は多様で幅広い目標、内容の設定が必要である。

・教師と一緒に、簡単なプレゼンテーション資料を作り、発表できる生徒が 1 名いる。また、学級農園での観察日記をプレゼンテーションのソフトを使って生徒が自分で写真を選び、挿入したり、その時の感想を一人で又は教師と一緒にかな文字入力や音声入力を使って文字を入力したりすることができる。

・興味関心のある事柄や人との関わりを通して言葉を用いて相手に伝えることが難しい生徒、身近な人からの話しかけを聞いたり真似をしたりすることはできるが、言葉で物事や思いなどを意味付けしたり表現したりすることが難しい生徒、具体的な活動や場面の状況を手掛かりとして、自分が見聞きした事例や経験を相手に分かりやすく伝えたりするために内容の時間的な順序に気を付けながら情報を整理することは難しい生徒がいる。

（2）つけたい力

・Chromebook を使い学期の振り返りシート（資料 1）を作成し、振り返りをすることができる。【知・技】

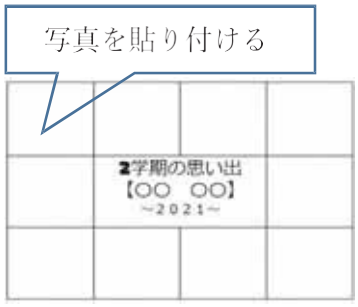
・Google ドライブ（共有ドライブ）から振り返りの写真を選び貼り付けたり、体験に裏付けられたイメージと一致させて思い浮かべ、自分なりに考えたりすることができる。【思・判・表】

・作成した資料「振り返りシート」を使って身の回りの事物や事象、気持ちを表した言葉を聞いたり真似したりして発表しようとしている。【学・人】

2 使用ツールを生徒が活用するための支援のポイント

生徒が主体的に写真を選ぶことができるように、共有ドライブ内にそれぞれの個人ファイルを作成し、その中に枠組みを作ったスプレッドシートと、20 枚程度の写真を入れておく。

教師が経験したことを言葉にして話したり、共感をもって聞いたり、相手に分かるように工夫して伝える姿を見せることで、写真や言葉から内容をイメージしたり、言葉で思いや考えを伝えようとしたりできるようにする。



【資料 1　振り返りシート】

3 指導計画

次・時数	学習活動内容
第 1 次	写真で振り返ろう ① 写真を時系列に並べて、アルバムに入れる。

（1時間）	② 行事の内容やその時の気持ちを付箋に描き、アルバムに貼り付ける。
第2次 （1時間・本時）	③ 共有ドライブから写真を選び挿入する方法を学習する。 ④ 自分が作ったシートを使って内容をイメージし、伝えたいこと発表をする

4 授業の展開

授業の展開		指導上の留意点
導入	① 始めの挨拶 ② 本時の流れ	
展開	③ 共有ドライブから各個人のフォルダーを選びスプレッドシートを表示させ、シートに自分の名前を記入する。 ④ スプレッドシートの枠内に共有ドライブから自分で写真を選んで挿入する。 ⑤ 発表 自分で作成したシートを使って、大型提示装置に表示された内容について自分なりの発表をする。	○かな文字入力を使い、文字入力し、自分のシートを作成するイメージをもたせる。漢字で書ける生徒は漢字で入力するように指導する。 ○手順書を作成し、主体的に取り組めるようにする。 ○写真から事柄やそのときの気持ち等を思い出せるように言葉にしたり、聞き出したりして、発表内容に使えるようにする。 ○大型提示装置に表示されたシートを一人で又は教師と一緒に確認し、提示した内容に応じた発表ができるように支援する。
まとめ	⑥ 振り返り ⑦ シャットダウン（Chromebook） ⑧ 終わりの挨拶	○シートは印刷し、各個人に配って発表内容を手元で見られるようにする。

5 実践を振り返って

（1） なにができるようになったのか

・これまでは、教師があらかじめ選択した写真を使用してアルバム作成を行っていたが、Chromebook で写真を選択できるようにしたことで、生徒が自分で写真を選び、学期の振り返りを主体的に行うことができた。また繰り返しの中で、一人で共有ドライブ内の個人フォルダーから自分で写真を選んで挿入することができた生徒も多くいた。

・作ったシートを使って、自分の考えや感想を発表したり、相手の発表を聞いたりすることで、楽しかった思い出を振り返ることや、発表した後の達成感をもつことができたように感じる。

（2） 発展・応用に向けて

・今後は写真を撮影する活動から生徒が参加して作成内容を考えたり、言葉を添えたりして、振り返りシートを作成し発表することで伝える内容が豊かになるのではないかと考える。

・目的（春を探そう等）を明確にし、生徒が撮影した写真を自分で貼り付けて資料を作る等の活動につなげることができると考える。